

岸和田だんじり祭り

岸和田だんじり祭りは、元禄時代（1688-1704）岸和田城の殿様であった岡部長泰公が、五穀豊穡を祈願するために行われた、稲荷祭（穀物の神の祭り）にその起源を発していると言われています。

その祭りの日には、城門が一般に開放され、町民は城内にだんじりを曳き入れ、殿様の前でいろいろな芸事を演じて見せました。

後にだんじり祭りは三郷とよばれた商民、農民、漁民の三つの町全体の祭りとなり、多くの町民にとっては、最大の喜びであり、大いに人々の人気を博しました。また昔は興奮が競争になり、各々のだんじりが競い合い、時にはぶつかりあい、壊れるほどの祭りであったので、別名、岸和田けんか祭りとも言われました。

300年以上の伝統を持つだんじり祭りは、岸和田市民の最高の誇りとして、毎年9月敬老の日（月）前の土曜日と翌日曜日に行われ、34台のだんじりが城下町を勇壮、豪快なショーを繰り広げます。年齢と組織別に、秩序正しい統制のもとに運営されている祭りは、日本で現存する祭りの中でも、他に類をみません。

だんじり用語：

曳き出し： 勇壮、豪快、全速力で、だんじり祭りの開始です。午前6時の市役所のサイレンを合図にすべてのだんじりが城下町の通りを疾走します。

やりまわし： 前艇と後艇の働きを利用して、自由に方向を変えることができます。四ツ辻でだんじりを直角に素早く方向を変えることです。祭りの中で最もドラマティックな見せ場です。

大工方： 大屋根の上で軽やかに踊ることは、大工方にとっては最大の喜びです。「飛行機乗り」と呼ばれる踊りは特に有名で、両手を広げながら、1本足で大屋根の上で立ちます。ウチワを使いながら方向指示をします。

彫り物： 各だんじりの側面には沢山の精巧な木の彫り物が見られます。日本の昔の有名な戦さの場面を表しています。

宮入り： 祭りの2日目午前に、34台のだんじりが3つのグループに分かれて、それぞれの神社に参拝するために曳行されます。

灯入れ曳行： 夜になると、だんじりは赤い提灯で飾られ、メインストリートをゆっくりと曳行されます。明るく輝いた提灯、リズムカルな太鼓と囃子声は、夜店の呼び子の声や食べ物の匂いと調和良く溶け合い、町全体をほのぼのとした、平和的な雰囲気包みます。

だんじり曳行時間

1日目:

6:00	—	7:30	曳き出し
9:30	—	11:30	曳行
13:00	—	17:00	曳行
19:00	—	22:00	灯入れ曳行

2日目:

9:00	—	12:30	宮入り
13:00	—	17:00	曳行
19:00	—	22:00	灯入れ曳行

だんじりは、総けやき造りで、重さ約4トン、高さ3.8メートル、長さ4メートル、幅2.5メートルです。曳き綱は、長さ100メートルから200メートルで、500人から1,000人によって曳かれます。バロック式のだんじりは、昔の桃山文化の最高に美しい建物と言われる日光東照宮の陽明門と同じくらいの美しさを持っています。

近年インターネットの急速な普及により、毎年世界の国々から沢山の外国人が、岸和田だんじり祭りを見物にやって来ます。岸和田市国際親善協会が毎年設置している「外国人のためのだんじりインフォメーションセンター」には、35カ国以上、300人以上が訪れ、フェイスブック等で世界へ、岸和田だんじり祭りのニュースが発信されています。

だんじりを見物するベスト3の場所は、こなから坂（日曜日午前中のみ）、駅前通り、そしてカンカン場です。また、カンカン場では予約制の有料観覧席があります。

- 構成
- ① 大屋根
 - ② 小屋根
 - ③ 前挺
 - ④ 後挺
 - ⑤ 大工方

